

CODE LETTER

Citizens towards Overseas Disaster Emergency

2023.4.21 Vol.71



写真：タウルス山脈（トルコ・カフラマンマラシュ）

Contents

巻頭言	1
特集：トルコ・シリア大地震	2
プロジェクトレポート	6
CODE未来基金NEWS	8
イベントレポート	10
スタッフ活動記録	13
会員・寄付者ご芳名	14
活動へのご協力をお願い	16

巻頭言「トルコ・シリア地震に思う」

2月6日早朝に発生した「トルコ・シリア地震」は、私たちの28年前の記憶を呼び覚ました。寒さに凍えながら自宅跡に立ち尽くす人、たき火を囲んで夜を明かす人……。あの日の自らの姿を重ね合わせ、いてもたってもいられない気持ちになった人は多かったのではないのでしょうか。

私の所属するコープこうべでも、発災直後から組合員の声があき起こり、「ハート基金※」からの拠出が全員一致で決定されました。また、CODEがトルコ・ネヴシェヒルの大学で日本語を教えている藤本憲志さんにつながったことにも、深いご縁を感じています。藤本さんは、コープこうべ職員として阪神・淡路大震災を経験した先輩だからです。

CODEの第1次派遣で、吉椿事務局長とともに学生スタッフの植田隆誠さんが現地を訪れ、藤本さんの大学の学生や、被災地で活動する学生ボランティアと交流できたことは、大きな意義があったと思います。

CODEは学生ボランティア同士の交流を支援プログラムの一つと位置付け、継続して取り組むことを決めました。助け合いを厭わず、自立志向の強いトルコの国民性には学ぶことも多く、日本の災害ボランティアの現状により影響を与えてくれるかもしれないと期待しています。

今回、複雑な政治的・社会的状況にある被災地にいち早く入れたのは、1999年のイズミット地震の際のつながりのおかげと知り、CODEの歩みを誇りに思いました。変わらぬ理念である「最後のひとりまで」の意味を考えながら、若い世代とともに未来を探っていきたくです。

※ハート基金……国内外で起きた自然災害に迅速に対応するため、組合員からの募金をプールするコープこうべの仕組み。組合員の代表が拠出を決定する。

(CODE理事/生活協同組合コープこうべ 冬頭佐智子)¹

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

特集

トルコ・シリア大地震



地震の概要

日時：2023年2月6日（月）4:17（日本時間10:17）
 震源：トルコ東南部ガジアンテプ県ヌルダ郡東26km
 規模：M7.9 深さ17.9km
 余震：2/6 13:24（日本時間19:24）にM7.5
 2/21 20時すぎにM6.3の余震が発生
 * これまでに7200回の余震
 被災地：「トルコ」ハタイ県、ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、
 アディヤマン県、マラティア県、ディヤルバクル県、アダナ県など11県
 「シリア」イドリブ県など10県43地区
 被害：死者5万4000人以上、負傷者11万人以上（3/14時点）
 （トルコ4万8448人、シリア5914人）
 被災者1560万人（約146万人がテントや避難所で生活）

倒壊家屋 約34万5000棟（トルコ国内）
 1万9000人が被災地から避難（2/14）

第1次派遣 2/10～2/18

【派遣者】

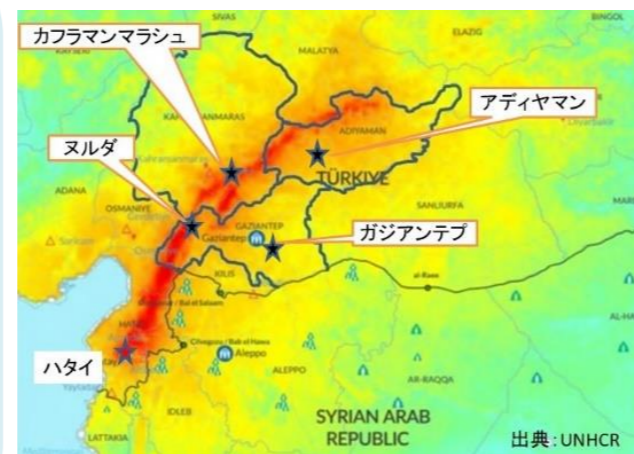
植田隆誠（CODEインターン、関西学院大学4年生）
 吉椿雅道（CODE事務局長）

【現地協力者】

藤本憲志さん（ネブシェヒル大学日本語学科講師）
 ウムートさん（ネブシェヒル大学日本語学科3年）
 オーズハンさん（ネブシェヒル大学日本語学科3年）
 ハサンさん（NGO ACEVコーディネーター）
 メハメットさん（Active Participants Association）

【活動内容】

被害状況の調査、今後の復興支援に向けた被災者へのヒアリング、
 2 救援物資（防寒具、雨具、テント、マットなど）の提供、現地NGO
 やボランティア団体との協議など



協力者の皆さん

【被災地の様子】

被災地に入ったのは、発災の5日後だった。第1次派遣では、比較的被害の少なかったガジアンテプ市を拠点に、ヌルダ、カフラマンマラシュ、アディヤマンで活動した。

人命救助のタイムリミットといわれる72時間は経過していたものの、ガジアンテプ市内以外の場所では被災地のいたるところで捜索活動が続けられていた。昼間の気温は10℃ほどあるものの、夜になると-6℃以下にもなるため、人々は倒壊したビルの隣で焚火を囲み、家族の帰りを待ち続けていた。重機の音と砂埃の中、家族を亡くした人の泣き声が聞こえた。ただ、その光景も時間が経つにつれて見られなくなっていった。

大抵の被災者は、AFAD（国家緊急管理庁）から支給されたテントで生活していた。テントでは20人くらいずつで生活しているようだった。毛布やストーブ等の防寒具は、自宅から持ってきたり、ガジアンテプのような被害の少なかった地域では自ら購入したりするなどしていた。中には、テント自体を自作している人もいた。被災前と住むところ以外は変わっていないという人もいて、経済的な格差も目立った。



捜索作業、家族の帰りを待つ人々（カフラマンマラシュ）



避難テント内部（ガジアンテプ）



↑カフラマンマラシュにて

ガジアンテプの避難テント→

【被災者の声】

第1次派遣では、100人以上の方にヒアリングを行った。声をかけさせていただいた中で拒まれたことは一度もなく、現地の方々には私たちが迎え入れてくださった。

「1999年の地震から何も学んでいない」（トルコ人大学生）
 「政府のことを100%信じている。外国には期待していない」（カフラマンマラシュ、60代男性）

「3分の1が亡くなり、3分の1が避難し、3分の1が街に残っている」（カフラマンマラシュ、60代男性）

「今も揺れている気がして不安。不安を感じないように働き続けている」（カフラマンマラシュ、40代女性）

「子どもが寒さで風邪をひいてしまった」（ガジアンテプ、30代女性）

「僕たちの話を聞いてくれたのはあなたたちだけだ。嬉しかった」（アディヤマン、大学生ボランティア）



【学生の視点】

海外の被災地を訪れたのは今回が初めてだった。被災地では、笑いあっている人もいれば、家族を亡くして泣いている人もいて、被災していない自分でさえもどんな感情になればいいのかわからなかった。しかしながら、トルコの人々は民族、宗教関係なく手を取り合って必死に前を向こうとしていた。その姿勢を私たちも学ばなければならないと感じたし、自分にできることは何なのか問い続け、向き合い続けたいと思った。（植田隆誠）

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★

「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

特集

第2次派遣 3/21 ~ 3/31

【派遣者】島村優希 (CODEインターン、大阪大学4年生)、吉椿雅道 (CODE事務局長)
【現地協力者】藤本憲志さん (ネブシェヒル大学日本語学科講師)、オズさん (トルコ人学生日本語通訳)、ハサンさん (NGO ACEVコーディネーター)、メハメットさん (Active Participants Association)
【活動内容】被災の復興状況の調査、今後の復興支援に向けたNGOとの協議、救援物資 (衣服、雨具など) の提供、中学校での防災講義、現地NGOたちとの会議

【1か月半後の被災地の様子】

第2次派遣はガジアンテブ市を拠点に、第1次派遣の際に訪れた場所や郊外、シリア国境近くなどを訪れ、仮設住宅やテントで調査を行った。ガジアンテブ市ではほとんど避難テントはなくなっており、ヌルダ郡では広大な仮設住宅の建設、その他の地域でも仮設住宅の建設が始まっていた。他方で、郊外の小さな町やアディヤマンなどの被害が甚大な地域は未だ倒壊家屋もそのままの状態が多く残っており、支援の手が入りきれていない様子が見られた。さらにヒアリングでは公的機関の手続きの不透明さや被災地での多くの課題 (以下参照)、民族問題などが上がった。

また、ガジアンテブ市のNGO団体の集まる会合で互いに意見を交換したり、アディヤマンで活動を続ける若いボランティアたちに再会することができた。

【被災者の声】

第2次派遣でも、多くの被災者の多種多様なつづやきに耳を傾けた。一人ひとりのつづやきから実際の被災地の現状が垣間見える。

「お手洗いとお風呂が清潔じゃない。着替える場所がなく、この地域にもできるのを待っている」 (ヌルダ郡郊外の町の女性)

「人間が欲張りすぎて、神が怒ったから地震が起きた」 (ヌルダ仮設住宅の高齢の男性)

「地震と戦争を関連付けて、子どもたちが怖がって学校に行っていない」 (ガジアンテブ市のシリア難民女性)

「ボランティアとNGOの連携が十分でない」 (アディヤマンのボランティア大学生)

「痴漢や暴力、民族間士の対立が起きている」 (ヌルダ、心理カウンセラーの大学生)

「政治やAFAD (国家緊急事態管理庁) に対して意見を言うことや考えることさえ罪になっている」



アディヤマンの若者ボランティアたち



←アディヤマンの街

日本の子どもたちのメッセージをトルコの子どもたちへ



【学生の視点】

最初はトルコの方々の方々に驚きながらも、お話を聞いていくと、被災地に元々ある民族同士の対立や貧困などの様々な要因が被災地での対立や問題につながっていることが見えてきた。地震によりその問題がさらに顕著になり、行政の管理も厳しい中で、どのようにすれば取り残される人々がなくなる支援ができるのであろうか。NGOやボランティアの存在意義が問われていると思った。

そんな中でも、現地のNGOの懸命な活動やお互いの協力体制、学生を含めたトルコのボランティアの動きを見て、この被災地にある希望を感じたと共に私自身もできる最大限のことをしていきたい。

(島村優希) 【課題】

地震から2か月で、広大な仮設住宅群の建設やガレキの撤去など急速な復旧・復興が進んでいる。いち早く被災者に安心・安全な暮らしを提供する意味では注目に値するが、他方でそのスピードの早さゆえに被災者一人ひとりの声がどこまで復興に反映されているかは疑問である。また、発災直後、政府の支援が遅れたことによる不満の噴出、支援のコーディネートのみならず現地のNGOやボランティアから指摘されている。また、被災した人たちにとって仮設住宅は十分な広さではないこと、宗教・民族的にも多様な状況の人もいることから様々なストレスも懸念される。そして未だ仮設住宅に入居できずにテントで生活している被災者も多い。(吉椿雅道)

【CODEの支援】

◆ 母と子どものケアセンター支援

前述のような状況を踏まえ、イスタンブールのNGO、ACEVがハタイ、ヌルダ (ガジアンテブ県)、アディヤマンの3か所に仮設住宅 (各250戸) を建設し、その中に「母と子どものケアセンター」の建設を計画している。1999年のマルマラ海地震の時からCODEとご縁のあったACEVは、平時から貧困地域などで子どもたちのケアや女性の社会参加のプログラムなどを実施していることもあり、この震災でも仮設住宅内の「母と子どものケアセンター」で子どもたちのトラウマケアやお母さんたちの社会参加などの支援を開始することとなった。CODEは、ACEVの行う「母と子どものケアセンター」プロジェクトをサポートしていく。

◆ ガジアンテブのNGOたちとの学び合い

第2次派遣の際に、支援活動に奔走しているガジアンテブのNGOたちと交流会を開催し、活動の中で直面している課題や疑問などを共有し、日本の災害復興の経験もお伝えした。被災地の市民社会の熱気と気概を感じた。CODEとしても被災地のNGOたちとの「学び合い」の場を今後も提供していく。

◆ 学生ボランティア交流

被災地アディヤマンでは、トルコ全土から駆け付けた大学生などのボランティアたちが今も活動を継続している。海外の災害現場では、緊急期以降、被災地で活動するボランティアは決して多くはない。災害多発国であるトルコと日本で災害ボランティアの経験や知見を共有することは、今後の災害ボランティア活動において重要であることは言うまでもない。公助から取りこぼされていく被災者を支えるボランティアの役割や意義について、トルコと日本の若者たちで災害ボランティアについて語り合う機会を設ける。

(CODE事務局長 吉椿雅道)

ご支援・ご協力お願ひします! ことの大切さを刻む
~1999年トルコ北西部地震の経験から~

トルコ・シリア地震 (2023・2・6) は、250kmにわたる東アナトリア断層の活断層が破壊されて起きた。この日本においても九州から四国、近畿地方と突き抜ける約450kmにわたる中央構造線断層帯があり、備えを万全にしなければならないという警告でもあろう。

この地震によって5万人を超える尊い命が、「パンケーキクラッシュ」によって一瞬のうちに喪われた。しかし、こうした現象はすでに1999年の地震でも多く見られた現象だ (1万7千人が死亡)。つまり、この24年間過去の教訓から学んでいなかったと言っても過言ではないだろう。ただ、トルコ政府はこの地震後建築基準を相当厳しいものにしたはずだった。しかし、政府と建築業者との癒着もあり、同基準を守らない施工をした結果だという事実も明るみになった。日本でも深刻な社会問題になった「耐震偽装装飾歯事件」を思い出す。

同じ地震多発の両国は、災害に強い「住まい方」を見直し、学び合う必要があると痛感する。

もう一つの学び合いは、復興に過程においては「誰ひとり取り残さない」ということだ。

災害直後の水・食料・緊急避難所・医療などの人道支援においてはもちろんのことだが、その後の復興のステージに入っても、支援の漏れ、復興格差があってはならない。

最も懸念されるのは、シリア・トルコの国境近くが震源地であったことから、宗教的、地政学的に複雑な要因があり、復興格差が生じることだ。今回の被災地は、昔から多様な民族が暮らし、中でもクルド人は近年では湾岸戦争以来数々の弾圧を受けてきたようだ。加えてイラク戦争 (2003) から起きた「シリア内戦」による「シリア難民」も地震被害者で、支援をおざなりにしてはいけない。

日本においても、災害時には支援が届きにくい人たちがかならず存在する。CODEは、これまで「最後の一人まで救う」と掲げ、国内外の支援活動を行ってきた。当面の仮設住宅やテント生活での避難生活においても、両国の過去の経験から学びあい、不公平をなくし、質的向上をめざす必要があると言いたい。いずれにしろ被災地の暮らしの文化を尊重することが第一である。

(CODE理事 村井雅清)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素 (文字やロゴ等) を入れる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

プロジェクトレポート

ウクライナ侵攻から1年...



ウクライナ侵攻1年集会

2月24日(金)に三宮駅の前でウクライナ避難民のLさんの呼びかけでウクライナ侵攻1年集会が行われました。集会はウクライナ避難民の方々と支援に関わる様々な団体と共同で開催されました。当日は集まったウクライナ避難民それぞれが故郷に対する思いを述べた後、全員でウクライナの独立と自由を象徴する歌「紅いカーリーナは草原に」を歌いました。多くの通りかかった人々も関心を持って立ち止まり、話や歌に聞き入る様子が見られました。



1年を経た今の思い

色々慣れたけど、今が一番大変かもしれないです。前は帰ることを考えたら元気が出たけど、今は戻っても安全か分かりません。生活がどうなるか分かりません。今一番怖い。夫も元気無いの。1月が一番辛かったです。私だけ日本で楽しんではいけないと思っていました。でも今はあの時と違って、ウクライナに戻ったら自分の持っているエネルギーを皆にあげようと思っています。だから帰ったら絶対に人を助けます。日本でも皆に助けられています。色々悩むけど、私の人生は一つです。今は待ちません。戦争で実感しました。戦争が起きてウクライナは一つになって団結したと思います。(ジトーミル出身、Oさん)

←Oさんと2才の息子のLちゃん

戦争は最大の災害だ！—ウクライナ侵攻 1年が過ぎて

去る2月24日、戦禍のウクライナから神戸市内に避難して来られた方々が、ウクライナ侵攻1年の節目に、平和を求め、追悼の集会が行われた。誰もが、一日も早く戦禍がおさまリ、平和が訪れることを願っているが、状況は日に日に悪化している。1年が過ぎて、益々深刻な事態に陥っている。

さて、神戸市内で暮らす避難者は、現在神戸市営住宅(33戸)に住んでいるが、当NGOはそのうち18世帯に新鮮野菜(MOTTAINAIやさい便)を届けたり、子守ボランティアを派遣したり、農園に参加して貰ったりと避難者に寄り添い続けている。

避難者は、毎日SNSでウクライナにいる家族と交信しているが、この辛さは私たちの想像を絶するものだ。でも私たちの前では、絶対に涙を見せない。並々ならぬ“覚悟”を感じる。

仕事をしたいけれど言葉が十分に習得できていないので、日本での今後の暮らしに不安を抱えている方が多い。H.Sさんは「やっと仕事に就けたけれど、日本の大学で勉強したいと夢を抱いている高校生の息子のためには、24時間でも働きたい!」と。またVさんは、「私は物乞いではない。何もせずに、部屋に閉じこもっていることには耐えられない。何でもいから仕事をしたい。そして、私たちを受け入れてくれたこの国にお返しがしたい」と訴える。

Vさんは、平和を願って写真のようなスケッチを描いている。鳥も、あらゆる生き物も、戦禍で亡くなった人の魂も、きっとウクライナに帰って来ると願いながら描き続ける。

*「MOTTAINAIやさい便」とは、とすれば廃棄処分になる有機・低農薬の新鮮野菜をウクライナの人たちに届けている配達活動のこと。野菜の提供をお願いします。

当NGOがこうした活動を通して、一人ひとりに寄り添うのは28年前の阪神・淡路大震災で、「最後の一人まで救う」という理念を掲げてきたからだ。「戦争は最大の災害だ!」とあらためて痛感する。

(CODE理事 村井雅清)

「みんな国に帰る」 (Vさんの描かれた絵)



CODEはこれからもMOTTAINAIやさい便や子守ボランティア(8p参照)の活動を通じて、支援を続けていきます。ご協力どうぞよろしくお願いします!

←侵攻1年の追悼集会にて、ジトーミルから避難されているVさん

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

CODE未来基金NEWS

子守ボランティア

「外をゆっくりと散歩する時間がほしい」「ずっと子どもといるとクレイジーになっちゃう」MOTTAINAIやさい便を届ける中で見えたウクライナ避難民の特に母親の子育て疲れを受け、CODE未来基金の学生たち主体で子守ボランティアを始めました。

この取り組みでは高校生や大学生のボランティアがご家庭を訪問し、子どもの面倒を見ている間に親御さんには自由に時間を過ごしてもらっています。親御さんはその間に散歩に行ったり、仕事をしたり、気分転換の趣味に時間を割か



てされています。

学生が伺うことにより、2才の子どもと避難したOさんはいつも「解放された！」とすっきりとした顔で言います。ウクライナ避難民支援、仕事などで手が回らないから子どもと遊んでほしいというウクライナ人Okさんからは「娘がいつも楽しみにしている。やっぱり年齢が近いから楽しいのかも」という声も。

また、参加する学生も子どもや親御さんとの交流を通して、多くのことを学んでいます。「家にたくさんウクライナの絵や作品があつて、ふとそれらが目に入ったときに、今はこんなふう楽しく遊んでいるけど心の中にはとても大きなものがあるんだろうなと胸が痛くなりました。今回のボランティアで感じたことを、より深く理解するために是非またこのような活動に参加したいと思いました」(濱田真彩さん)や「母国に帰りたいけれど帰れない(帰るのも怖い)、そんな状況において、私たちがお手伝いすることで少しでも笑顔が増えたらこれほど嬉しいことはないと思いました」(吉田真拓さん)など、学生ボランティアも様々なことを考え、学びながら活動に取り組んでいます。

農業フィールドワーク

元CODE理事の村上忠孝さんのご協力で、昨年の11月から西区の畑でウクライナ人のLさんとCODE学生スタッフが毎週農業体験をさせていただいています。まれにLさんのお孫さんも参加する時もあります。いつも畑に着いた途端に嬉しそうに、乗っていたベビーカーからおりて、畑を走り回り農作業も手伝ってくれています。この農業体験での内容は、その日により変わっていますが、いつも土に触れ、採ったばかりの野菜をたき火でお昼ご飯を作り、自然の中で生きていることを実感しています。これまで「農業と国際協力」や「丹波農業フィールドワーク」「食育プロジェクト」を通して、農業と国際協力の関係性や人と人との繋がりの基本に農業があることを体験し、知り感じていました。したがって、ウクライナから避難しているLさんと一緒に農業をすることによって、自分も体験し改めて確認することができました。また、農業の奥深さも改めて感じました。

(山村太一)



その他このようなイベントにも参加しました！

- ◆ 12/18 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth
- ◆ 2/28 NGO-JICA 協議会

12月18日は関西NGO協議会主催のワン・ワールド・フェスティバル for Youthに参加しました。このイベントをきっかけに、子守ボランティアに参加を始めた高校生もいました。

2月28日はNGO-JICA協議会ユースの集いに参加しました。CODE未来基金の若者3人がCODEでの活動内容の紹介や国際協力を担う若者をつなげることについて議論を行いました。別のNGOでインターンを行う学生の業務の内容や想いをお互いに学びました。



NGO-JICA協議会で議論を重ねる様子

半年間のインターンを振り返って...



山村太一 (神戸学院大学現代社会学部社会防災学科4年生)

半年間インターンをして、特に印象に残っていることが二つある。一つは、インターン中に発災したトルコ・シリア地震だ。今までの仕事内容とガラリと変わり、事務所内に緊張感が走っていた。初めて、NGOで災害対応に携わることができ、本やテレビで知る現状よりもリアルに伝わる生の情報に触れることができた。また、改めてCODEが行っている市民目線での活動の大切さを感じた。

二つ目は、3月に行ったCODE20周年事業である。昨年から6回にわたりプレセッションを行い、同世代の「モヤモヤ」を共有し、大人にぶつけた。「20年先に何を伝えるか」がテーマであるが、「今」ここにいる「自分自身」に、「社会」に伝えることが最初の一步になるのではないかと大人たちの意見を聞くことで気がつくことができた。

植田隆誠 (関西学院大学総合政策学部国際政策学科4年生)

この半年間で、人として大切なことを沢山学んだ気がします。勉強もあまりしてこなかった私にとっては、皆さんとお話するだけで世界が広がり、同時に自分の無知さを身に染みて感じました。大きかったのは、太一やしまむー(島村さん)との出会いです。それぞれの性格は全く違いましたが、向いている方向は同じでした。時には互いの悩み等も話せたことで、今後の生き方を考えるきっかけにもなりました。忙しくも常に楽しく、充実した半年でした。これからもこの半年を思い出しながら、夢を諦めないでいたいと思います。本当にありがとうございました。



島村優希 (大阪大学人間科学部4年生)

昨年の10月に思い切ってインターンを始め、毎日様々な経験をしている中であっという間に半年。この半年間で本当に沢山のことを学びました。私の得た一番大きな学びは助けを必要とする人々ひとりひとりと丁寧に向き合うことです。MOTTAINAIやさい便などのウクライナ避難民支援に取り組む中では、一人の声を受けて例えば子守ボランティアを始めたり、湯たんぽを届けたりなど、それぞれに寄り添う中で新たな支援につながる場面が何度もありました。同行したトルコの派遣では、現地での自分の無力さを実感しながらも、出会ったNGOやボランティアの方たちの姿勢を見て、自分にできる行動をしようと思えるようになりました。このインターンで学んだことを大切にして、将来の道を歩んでいきたいです！



- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

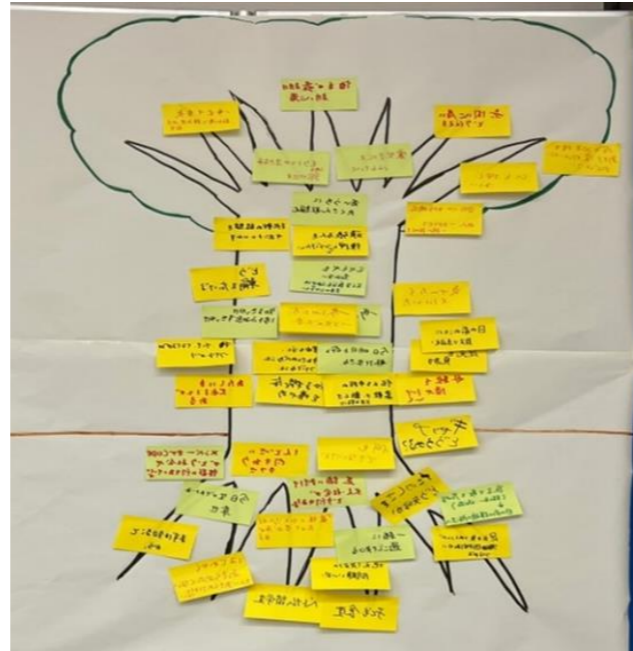
- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

イベントレポート

CODE20周年記念事業
20年先にあなたは何を伝えますか？
 ～若者と共に考える～

CODE海外災害援助市民センターは、1995年1月17日の阪神・淡路大震災をきっかけに、法人として2002年に発足しました。これまで20年の間に多くの紛争や災害が発生し、2023年2月6日には近年まれにみる大規模・複合災害と言える「トルコ・シリア地震」が発生しました。加えて地球温暖化による気候変動の影響もあり、社会は大きく震撼しています。さらに「ウクライナ侵攻」による戦禍の中で、ウクライナには甚大かつ凄惨な被害が確認され、この影響は世界中にダメージをもたらしています。

このような世界の状況下で今の社会の在り方に違和感を覚える若者も多いのではないのでしょうか。CODEは20周年記念の企画として、そのような思いを持つ若者を中心に「私たちは、いま、20年先に何を伝えるのか」について歴史や経験を今につなげながら、社会に対する「もやもや」と真剣に向き合いつつ、共に語り合いました。本セッションでは、対面とオンラインで若者10名を含む32名の方々にご参加いただきました。これまでに6回にわたり毎月、若者たち自身が主体で議論を重ねてきたこともあり、世代を超えて、とても大切な議論をすることができ



本セッションで作成したいのちの樹

開催概要

◎本セッション
 CODE20周年記念事業「20年先にあなたは何を伝えますか？～若者と共に考える～」

日時：2023年3月19日（日）14:00～16:00

開催：対面（こうべまちづくり会館）、オンラインのハイブリッド

参加者：若者10名を含む32名

主催：CODE海外災害援助市民センター、CODE未来基金



本セッションの様子

◎プレセッション

第1回 プレセッション テーマ「足元を見直す」

日時：2022年11月25日（金） 10:00～11:00

第2回 プレセッション テーマ「人々との接点」

日時：2022年12月12日（月） 12:00～13:00

第3回 プレセッション テーマ「タテ、ヨコ、ナナメの世代を超えたつながり」

日時：2023年1月6日（金） 10:00～12:00

第4回 プレセッション テーマ「希望」

日時：2023年1月25日（水） 10:00～12:00

第5回 プレセッション テーマ「20年先に何を伝えるのか」

日時：2023年2月15日（水） 16:00～18:00

第6回 プレセッション テーマ「本番のセッションに向けて」

日時：2023年3月7日（火） 16:00～18:00

学生の感想（抜粋）

- ◆ 学生と大人が関わる機会は少ないので、20周年事業を通して話す機会を持てて良かったです。『もやもやを大事にする』という大人の方の言葉に最初は戸惑いを感じましたが、辛くしんどい状況こそが何かを変える力になるということに新たな気づきと、悩みで先ばかり見ていたのでもう一度自分の足元から見つめ直していこうと思いました。また、このことは20年後にも変わらず言えることかと思えます。最初の一步を踏み出すには不安や勇気がいると思いますが、人生の先輩方のお話を聞いて私も踏み出してみようと思えました。（20代女性）
- ◆ これまでのプレセッションを踏まえて若者と、20年前を知る大人たちと議論することができ、とても濃い時間でした。今後もCODEでの活動を通して学んだことを振り返りながら、現場や自分自身のモヤモヤと向き合い過ぎていきたいです。（20代女性）
- ◆ 「正論をいかに打ち崩すか」、吉橋さんの言葉だ。ある時代にとつての正論、ある人びとにとつての正論はまるで違う。今回の事例だと、「被災地＝危険なところだから行くべきではない……」という正論が（おそらく）存在している。危険を回避するという意味で、この正論には意義がある。だが、この正論が必ずしも正しいとは言えない可能性もある。それぞれの正論を批判的に打ち崩し、その時代、その人々にとって何が正論なのか問い続けなければならないと感じた。若者としてコロナ禍を経験した私たちには、次の世代に伝えられることがもっと他にもあるのではないかと感じた。2020年からの約3年間を若者として過ごした私たちだからこそ感じたこと、考えたこと、思いを馳せたことがもっとあると思う。私は特に、人とのつながりの大切さを痛感した。こうした議論を今後、できたらと思う。（20代男性）
- ◆ 「今ある課題」だけでなく、今後を見つめる場の尊さを実感した。大人と若者が分かれて議論して、それを互いにみれてのがめちゃ良かった。別々に話しつつも、お互い何を話してるのか分かって興味深かった。（20代女性）
- ◆ 「20年先に何を残すか」と問われてもすぐには答えを出せない。20年先の自分や社会は大きく変わっているかもしれないし、逆にほとんど変わっていないかもしれない。CODEに関わって約2年、コロナ禍や大学の関係で中々海外へ行くことができなかった。他のメンバーが現地でも活動するのを見て、自分には何が出来るのかと何度も思った。そんな中今回の20周年事業では「知る機会」というキーワードが挙がった。国際社会はもちろん、自分の身の回りですら気づかれていない問題がたくさんある。それをまずは知らないといけない。また他の人に知らせることで、その人も知る機会をもつことができる。そうすれば、何か課題に取り組むための一步を自分も他の人も踏み出せるのではないかと。「自分の行いの結果は25年の周期で現れる」という意見があった。僕はCODEの20年の全てを知っているわけではない。ただ20年先には、自分が今CODEの一員として取り組んできた結果が確実に現れるだろう。そのため今とはとにかく自分と周りの人に「知る機会」を創りだしていきたい。（20代男性）
- ◆ 正直20年先、10年先、5年先でさえも、今の自分と社会がどうなっているのか想像できない。「20年先に何を伝えるか」がテーマであるが、「今」ここにいる「自分自身」に、「社会」に伝えることが最初の一步になるのではないかと大人たちの意見を聞くことで気がつくことができた。過去も未来も、今から作られ、自分自身で作っていくのだと実感した。（20代男性）

～全体を通して～
 今回の企画では、日ごろ深く関わる機会のないボランティアに長年、昨年から6回にわたりプレセッションを行い、本番のセッションでも聞いていただけたというとても貴重な経験をさせてくださった。20年先に何を伝えるのかを考えたこと、共感や新しいアイデアも出てきた。足元を見直すことで、20年先も最初の一歩を踏み出すことができ、足元を見直すことの大切さを感じた。20年先は、大人・若者の意見は「いのちの樹」に貼り、これから、また新しい第一歩を踏み出すためにも、ブラッシュアップし議論を継続的に行っていきます。

さらに、今回作成した「いのちの樹」を胸に、今後NGOとしての活動だけでなく、若者たち彼ら自身の生き方にもつながっていくのではないのでしょうか。

CODE20周年記念事業にご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、関係者の皆様、共に考える貴重な機会

【閉会の挨拶】室崎益輝（CODE代表理事）
 この20年は暴風の吹き荒れる大変な時代だったが、CODEは枯れることなく、しっかり根を張って育ってきた。だが、たくさんの花を咲かせる力はない。次の20年でそのつぼみをどう開かせていくのか、しっかり根を張って社会全体を変える大きな樹になるようにするのが次の20年の宿題である。CODEといういのちの樹の根底に最後のひとりまで、などの大切な血が流れている。次の20年でたくさんの花を咲かせるようにしたい。



- 水色の枠線.....切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

イベントレポート

CODE寺子屋セミナー特別編 トルコ・シリア勉強会 「被災地を知る～トルコ・シリア地震を機に～」

CODEは、今後、トルコ・シリア地震の被災地で現地のNGO等と連携し、復興支援を行っていきます。そのため、よりトルコ・シリア地震の被災地に寄り添った視点を学ぶため、本セミナーでは1999年のトルコ北西部地震からCODEにご協力をいただいている岩城あすかさんを講師にトルコの文化・民族・宗教・政治や、1999年のトルコ北西部地震（マルマラ地震）の経験についてお話いただきました。

開催概要

「被災地を知る～トルコ・シリア地震を機に」

日時：2023年3月18日（土）13:30～15:30

講師：岩城あすか（箕面市国際交流協会事務局次長 兼総務課長、
自治体国際化協会多文化共生アドバイザー）

セイハン・デニス

開催：対面（兵庫区文化センター 第一会議室）

主催：CODE海外災害援助市民センター、CODE未来基金



参加者の感想（抜粋）

- ◆ 情報が表に出なさ過ぎていてことに衝撃を受けた。そして、メディアの情報を鵜呑みにするのではなく自分で考え本質を掴むことの大切さを学んだ。また、そのような課題が山ほどあるのにも関わらず、声を上げる人が少なすぎることに強い疑念を抱いた。課題を把握し、声を上げることが当たり前になるような社会になるためにも、NGOが今後どのようにアプローチしていくか考えなければならない。（20代男性）
- ◆ 今回初めて、CODEの勉強会に参加させていただきました。トルコ・シリア地震は、ニュースで見たことがあっただけで、大変だと思っていました。国名は知っていたけど、トルコの文化・民族・宗教・政治について知る機会は今までなかったので、岩城さんのお話は、自分にとって衝撃的なものでした。被災者全ての人に支援が行き届く世界になってほしいとも改めて感じました。（20代女性）

トルコ・シリア地震 第1次派遣報告会



開催概要

「トルコ・シリア地震現地派遣 緊急報告会」

日時：2023年2月26日（日）14:00～16:30

報告者：吉椿雅道（CODE事務局長）
植田隆誠（CODEインターン）

開催：対面（ふたば学舎3階講堂）、オンラインのハイブリッド

主催：CODE海外災害援助市民センター

後援：生活協同組合コープこうべ

トルコ・シリア地震の第1次派遣（2023/2/10～2/18）の報告会が神戸市長田区のふたば学舎にて行われました。報告会では、現地に派遣された吉椿と植田から、被災された方々のつぶやきや、そこから見える課題等の報告がありました。また、第1次派遣の現地協力者であった藤本憲志さん（ネブシェヒル大学日本語学科講師）やトルコ人学生、岩城あすかさん（本ページ上参照）にもオンラインでご参加いただき、現地からの情報やトルコについての詳しい情報を伝えました。会場からも質問が飛び交い、一人ひとりの関心の高さがうかがえる場となりました。

スタッフ活動記録

12/19	灘中学生の研究「途上国での災害支援」のヒアリング（吉椿）
12/22	CODE理事会
12/23	舞子高校生インタビュー（吉椿）
1/11	神戸龍谷中学高校の追悼礼拝で講演（吉椿） 龍谷大学「国際NGO論」で講義（吉椿）
1/12	相生市金ヶ崎学園大学教養講座で講演（吉椿）
1/16	関西国際大学サーフェスマネジメント「国際防災協力」で講義（吉椿、島村、植田）
1/17	阪神・淡路大震災28年
1/17-19	福島県双葉町スケッチ展でブース出展（チョホンリさん）
1/19	福島県双葉町スケッチ展で講演（吉椿、植田）
1/20	コープこうべ総代研修会に出席（吉椿）
1/25	20周年事業プレセッションを開催（島村、山村、植田、山内、山口、村井理事、吉椿）
1/26	開発協力大綱NGO勉強会（関西NGO協議会）に参加（吉椿）
1/30	名古屋ウクライナ避難者支援のための情報共有会議で講演（吉椿）
1/31	コロナ禍と日中交流に関するインタビュー（吉椿）
2/2	関西NGO協議会理事会に出席（吉椿）
2/5	ワンワールドフェスティバル「開発協力大綱改定に関する意見交換会」に出席（吉椿）
2/6	関西学院大学災害ボランティアサークル「つむぎ」で講演（吉椿） トルコ・シリア地震発生
2/7	灘中学公民科授業全体発表会に出席（吉椿） 関西国際大学アジア提携校の学生に講義（吉椿）
2/9	金沢大学国際協力論で講義（吉椿）
2/10-18	トルコ・シリア地震第1次派遣（植田、吉椿）
2/10	葦合高校で講義（島村）
2/15	20周年事業プレセッションを開催（村井理事、山村、黒瀬、柳瀬、佐野、島村）
2/16	葦合高校で講義（山村） NHK「ニュースきん5時」に出演（吉椿）
2/19	トルコ・シリア地震街頭募金に参加（全国災害ボランティア支援機構、舞子高校、ワカモノチカラ、吉椿） トルコ・シリア地震街頭募金に参加（1.17希望の架け橋、吉椿）
2/23	トルコ・シリア地震街頭募金に参加（1.17希望の架け橋、植田）
2/24	兵庫県トルコ・シリア地震のヒアリング（村井理事、吉椿） ウクライナ避難者平和の集いのサポート（村井理事、島村、植田、吉椿） CODE理事会
2/26	トルコ・シリア地震第1次派遣報告会を開催（植田、吉椿）
2/28	関西NGO-JICA協議会に参加（植田、島村、山村、吉椿）
3/1	兵庫県知事面談（植田、吉椿）
3/2	サンテレビ「キャッチアップ」に出演（吉椿）
3/6	藍那小学校でトルコ・シリア地震講演（吉椿） NHK「ホット関西」「Live loveひょうご」に出演（吉椿）
3/7	FMわいわい「トルコ・シリア地震報告」に出演（吉椿）
3/9	DRAトルコ・シリア地震報告会に出席（吉椿）
3/11	1.17希望の架け橋のトルコ・シリア地震街頭募金応援（吉椿）
3/13	コープこうべでトルコ・シリア地震の報告（村井理事、吉椿）
3/14	NGO-JICA協議会に出席（吉椿）
3/16-17	愛媛大学で講演（吉椿）
3/17	日本財団ボランティアセンターで講演（植田、吉椿）
3/18	CODE寺子屋特別編「被災地を知る」（岩城あすかさん）を開催
3/19	20周年記念事業「20年後に何を伝えますか？」を開催
3/21-4/1	トルコ・シリア地震第2次派遣（島村、吉椿）
3/22	コープこうべハート基金運営委員会で報告（植田、村井理事）
3/24	トルコ・シリア地震報告会「被災地のいま」（近畿ろうきん、関西NGO協議会と共催）を開催 （宮本副代表、植田、山村、島村、吉椿）

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

会員・寄付者 ご芳名 (五十音順、敬称略)

(2022年11月16日～2023年3月31日)

【会費】

飯田浩、岡田重益、鎌倉千俊、近藤悦生、坂戸勝、杉山百合子、生活協同組合コープこうべ、立部貴文、田中一正、田中圭子、中里一実、長谷川真弓、原田悦子、小西美子、藤島真知子、藤原雅人、牧林定男、満田里美、三宅川泰子、宮崎洋介、本岡秀子、山部悦則、山本孝太郎、山本彰子、山本文美子、黒瀬晴世、小林孝信、新崎廣治、杉田文夫、石原凌河、旦保立子、長澤雄二郎、鎮西貞子、白水士郎、飛田雄一、兵頭晴喜、北茂紀、茂幾保代、林宏子、鈴木有、亘佐和子

【ご寄付】

個人

(ア行) 相川康子、相澤徹也、青池憲司、アオキカオリ、青木正美、青田良介、明石春枝、明田泰史、浅野秀盛、安達拓、足立朋美、安達有吾、アダチアキタカ、安部順三、新井場公德、荒木裕子、有賀文子、飯嶋朝子、飯塚桂子、飯沼正晴、井内智映子、井奥眞貴子、いかいゆき、五十嵐明、石川知子、石倉泰三、いしだはじめ、石田裕之、石田洋平、石島小夏、石角知年、イシトウナオコ、池尾美紀、池田直美、池谷薫、池田隆子、板野公子、伊勢正、磯辺康子、市川加代子、市川彩、市田真理、市橋純子、五辻活、イツツジソノコ、出田豊久、イデマサル、伊藤幸子、伊藤聡子、伊藤隆、伊藤伸子、井上菜採、井上正之、井上満夫、井上由紀子、イノウエコタロウ、今村雅子、今山朝枝、イムラノリコ、岩井雅之、岩尾興一、岩佐未弧、イワナガミエ、ヴァンデポンツェル伊津美、上岸隆治、上田恵子、上田豊子、植田嘉好子、植田麻紀、上谷桂子、上瀧大、上柳幸子、宇佐美和子、宇高よう、宇都彰浩、浦崎なぎさ、瓜生和子、漆原健彦、江口節、江口伶、江戸喜世子、遠藤富美、大井尚敏、大石理沙、大川真澄、大越実、大崎加代子、大下秀二郎、太田茂樹、大竹仁子、大竹真弓、大塚政幸、オオニシカツユキ、大沼悦子、大野文子、大場ゆかり、大原和子、大原美保、大牟田聡、岡秀和、岡田邦子、岡田聡子、岡田宋、岡田智子、岡田康子、オカダヨウコ、岡久萌菜、岡部徹、岡山康子、小川正、小川美智、小笠原智子、オグラミドリ、越智桃子、落合美恵子、尾角宏之、尾形美保子、荻野伍朗、奥山隆生、尾澤良平、小澤良明・絃子、小淵憲子、小野寺歩、小原左江

(カ行) カコイタクヤ、鹿子木健、笠置りか、風間養子、柏木巴喜子、カシワギユウスケ、梶丸富子、梶川彰三、我謝賢、片岡さわ子、葛谷潔昭、加藤加代子、加藤晴之、加藤まゆ、加藤祐子、カトウヒロシ、金井裕美子、金森崇之、加部文彦、釜谷幸江、釜谷隆司、神原佳予子、神白道尊、カミオカツトム、亀井伸治・麻紀子、亀田彩子、川崎由美、川崎善子、河崎紀子、河内毅、河知秀晃、川中大輔、川平麻衣、河村紀子、カラサユウジ、苜谷恵、軽込都、甘糟直行、筒佐知子、カンサイマキコ、菊池遼、岸桂子、岸下正純、岸下晴圭、岸本くるみ、北茂紀、北川佳子、北村朱美、キタモトノゾミ、木田拓雄、木戸仁之、橋田幸夫、木南哲也、木下愛子、木下洋子、キムキョンスン、キムマンリ、キムミンスク、木村悦子、木村卓美、木村周平、木村達也、具志好美、口石和子、国本知子、久保陽子、久保幸雄、クボイサオ、久保田裕康、クリキリエ、栗原清一、黒木ゆき、黒澤司、黒沢ひとみ、黒瀬晴世、桑原綾子、桑山友宏・展子、郡田正美、高地実希、河野真紀、小坂里恵、コサカマサヨ、児島恵子、越山健治、児玉たか子、ゴトウカズヤ、後藤田路子、小倉久枝、小竹貴介、小西貴子、小林郁雄・まゆみ、小林一栄、小林直哉、小林恵、古林桂太、小林アイ子、小林貴子、小林孝信、小林和子、小吹岳志、駒田朋子、駒津敏行、コマツユミ、小柳はじめ、金鋼綾乃、近藤悦生、近藤恵子

(サ行) 斎藤茂樹・敬子、サイトウスズキ、斎藤正代、斎藤真理子、齋藤優子、酒井かつみ、坂戸勝、坂本鐵彌、櫻井里美、佐々木麻奈子、佐藤朝子、佐藤仁志、サトウカズミ、佐藤聖子、阪井健二、坂倉行子、坂本由美子、阪口陽子、榊康文、笹島晴美、笹原顕雄、笹山史帆、サトウユタカ、眞田貞子、讃井乃梨子、三前直美、塩井杏奈、重田剛、重元勝、重森徹、篠原一夫、シノハラカヨコ、芝本祐造、島木和子、島崎明子、島本紗羽、清水茂三、清水典子、清水有基栄、城尾里美、新地和恵、新藤和重、白水士郎、白鳥孝太、新保風子、末次麗子、管義正、須賀末美、スギヒロコ、鈴木佑子、鈴木千花、鈴木静、鈴木幸子、鈴木治、鈴木俊江、鈴木順子・宏子、鈴木有、スドウアキラ、スミモトハルタロウ・アキジ、関口威人、セキグチケンタロウ、関本大介、センジョウマコト、外川文男、外柳万里、空野仁

(タ行) 鷹柴恭宏、高石知宏、高木政裕、高田愛、タカタコウタ、高橋貞美、高橋康彦、高橋大希、高松裕一、高見沢秋子、高見邦雄、田口静、武内旬子、武田かおり、武久真大、武田純一、高山明日香、竹中誠、タケモトケイコ、竹代一洋、竹代誠、タジマソウタ、多田佳代、多田尚子、田代健信、タツカワカズト、田中一正、田中康子、田中幸子、田中千也、田中英雄、田邊正則、田村一美、田村康成、田波光子、谷川瑞穂、タノウエマコト、だるま森、旦保立子、チンナミ、鎮西貞子、ツガワヒロシ、佃祐美子、辻伸行、津田秀子、ツチダヨシノ、薫野信、土方トシ、土屋葉、土屋峻、堤美夫、ツネミスラン、坪谷令子、坪田卓巳、鄭恵姫、立原真由美、立浪雅美、立石雅昭、立部貴文、立部知保里、出羽桃子、寺澤温日、土居純子、東末真紀、戸上和美、徳永清史、徳永秀哉、徳本知津子、戸田克己、富田京子、富田満、トミタヨシコ、豊留嘉代

(ナ行) 中井忠、仲井弘子、中尾陽子、中川徹・澄子、中川夏姫、中川寿子、中川めぐみ、中川章子、中川和之、中島萬智子、中西愛子、永井満、ナガノナオコ、ナカボラヨシフミ、永橋風香、永松恵美、永松伸吾、長智智子(大八木智子)、長澤雄二郎、中嶋秀樹、中須雅治、中原喜代子、ナカミチル、中谷秀子、中谷優子、中東尚子、中野昭代、中村伸子、中村雅子、中村佳代子、中村幸子、中村真理子、中村実子、中村文、中村恵美子、中村幸、名越信次、中村雅子、中村実子、中村文、中村恵美子、中村幸、名越信次

- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

会員・寄付者 ご芳名 (五十音順、敬称略)

いつも応援してくださり、ありがとうございます!



鳴海雅治、ナンバミドリ、西田滋、ニシダトモコ、西川泰弘、西村愛、西村智香子、ニシヤスノボル、湯井恵美子、沼田祐子、沼田實、根本道、野崎隆一、野々村耀、信厚澤、野間美子、野田政子、野杵晃輔、野良夢一

(ハ行) 長谷川かよ、秦智、服部武、花房恵美子、羽原弘二、濱田幸一、濱川由香、浜口和子、林ひさ子、林亮子、林勲男、林宏子、林晶子、林大造、ハヤシチアキ、原田サトシ、原田聡、原田智子、早野良美、板東麗、東中健悟、日外良澄、飛田賢二・衣美、飛田潤、飛田雄一、日野富仁、ヒヨクユキヨ、平井太佳子、ヒライサトシ、ヒラオタカアキ、平澤寿枝、平林英二、平山隆史、平山慶和、廣瀬直美、廣瀬真理子、ヒロセミツカズ、廣戸久美子、廣部亜由未、兵頭晴喜、婦木佑季、福田和明、福田和昭、福田優子、藤岡江里子、フジサワヤスコ、藤田裕子、フジタヨシエ、フジタダツグ、ふじまみかこ、藤室玲治、藤本恵子、藤本憲志、藤本孝、藤原健司、藤原千恵、藤原氏子、古川敏美、宝山敏、ホウジョウトモヒロ、法化図典子、星佳伸、星田逸郎、細川治子、細見則子、堀孝臣、本田由子、ホンモトヨシコ

(マ行) 牧野瑠衣、正井直子、マダカナエ、増田次朗、榊田順子、松井敬代、マツイタネミ、松江直子、松下紀史子、松田武郎、松本康子、松原久、松田曜子、松藤聖一、松本誠、松本理絵、マツモトアユミ、三浦マリ、三浦真里子、三浦陽子、三木陽子、水平平、ミズノヒロシゲ、ミスミミツコ、溝口美和、道木秀行、満田里美、三井さよ、峯里砂子、湊崎康継、南裕子、南谷夏未、三原翠、ミハラショウコ、美馬峰子、三宅直子、三宅川泰子、宮崎洋介、宮田真希、宮武光則、宮地有紀、宮永勉、宮脇佐和子、宮向啓司、三輪式、三輪敦子、ミワマリナ、向将太郎、向川友子、宗政美穂、村井ゆかり、村上沙智代、村上隆行、村田雅子、村山京子、室崎益輝、室田哲男、毛利敏子、桃川登志子、森要作、森沢てるみ、森田美鶴、森田健二郎、モリタケンジ、森本莉永、森谷瑛子

(ヤ行) 八尾高伸、矢澤法子、矢代嘉郎、安江哲、安岡剛、安田一則、安元曜子、矢田部泰介、ヤツキツトム、柳あず美、柳瀬里佳子、矢野容子、矢吹謙治、藪田悦子、山内和代、山口初恵、山口俊雄、山崎茜、山崎清治、山崎水紀夫、山城(松本)和美、山下ひとみ、山科満、山添令子、山田重夫、山田綾子、山田佳以子、山田千恵子、ヤマタナオコ、山本彰子、山本健一、山本孝太郎、山本文美子、山本美枝、山本佳子、山本正紀、山本二郎、ヤマモトリョウ、湯浅恵、湯川雅也、雪岡恵津子、湯座晃一、柚原里香、湯原武彦、ヨコイアヤカ、横溝文夫、横山恵子、横山道子、吉川道子、吉川貴子、吉崎唯、吉澤潤治、吉田邦子、吉田妙美子、吉積洋子、吉成智子、吉野恵子、吉本優、ヨシモトレイカ、ヨシモノミノコ、米谷空、米谷啓和、米永誓子、米花伸彦、ヨネヤマサチコ

(ラ行・ワ行) 龍秋雄・知子、廖解放、若月徹、ワカヤマフミエ、渡辺健太郎、渡邊晶子、渡辺隆男、渡辺真由香、渡辺知佐子、ワタナベトモコ、綿貫利香、和田勝美、和田真美、亘佐和子

(読み方不明 * 申し訳ありません) 饗庭千代子、昇嶺夫、茂幾保代、嶽肩孝江、上林あさ子、上角塚治、Ayumi Pham、HOQUE SADIA JANNTN、NOVIDZOTUR ROFINGAH

企業・団体

明石西高校生徒会ボランティア同好会、芦屋川教会、芦屋西宮市民法律事務所、アスタ新長田スティールパン振興会、尼崎園田トルコ・シリア救援活動呼びかけ人の会、アメニティ2000協会、アーユス仏教国際協カネネットワーク、一妻保育園、1.17希望の架け橋、(株)WE21ジャパン厚木、MBSラジオ、FMわいわい、(株)オオイ取締役社長 大井尚敏、小千谷市民芸能連盟、おもやい、KAZZ&Gonna、CANADIAN ACADEMY KEY CLUB、SVTS風組、関西NGO協議会、関西マラティア友好協会、関西学院大学ヒューマン・サービス支援室、神戸小学校、北いわて未来ラボ、近畿労働金庫、神戸市外国語大学ボランティアコーナー学生スタッフOBOG、神戸市立保育園連盟、コープこうべハート基金、コミュニティ・サポートセンター神戸、グッドフレンズサポート、桜の宮北鈴蘭少年野球チーム、静岡県ボランティア協会、ショファイユの幼きイエズス修道会、Think Locally Act Globally、新設Cチーム企画、全国災害ボランティア支援機構、ソシオ・プロダクト、カサハラの支援の野鳥提供など、ROADひめじ、生活クラブ生活協同組合都市生活、惣菜居酒屋とちり、とらとびまぼろし、美丹波プロトコム、ウミガキ、志保高橋、橋本街、鳴海金実行委員会、長岡市国際交流センター、びんがや、長岡市立図書館、鶴岡橋子、橋田屋敷教会、名古屋北区社会福祉協議会、灘中学高校生徒会福祉委員会、日本キリスト教団明石教会、日本基督教団名古屋中央教会、ハイチの会ディオジェン智子、ハムハムシーブストア、葦合高校、Blue earth Green trees、北海道札幌市東区北条町、舞子高校環境防災科、舞子高校音楽部、瀬子高校野球部、毎日新聞大阪社会事業団、まちづくり工房井筒屋、松山さかのうえ日本語学校、合同会社むつつのたね、(株)モンベル、ゆめ風基金、リエラ、レスキューストックヤード、ワカモノデカラプロジェクト、ワンセルフ、ワンネススクール

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

ご協力のお願い

みなさまからの応援があって、CODEは活動を継続できます。
お家から世界へ。CODEが支援のお気持ちを届けて、世界とあなたをつなぎます。

海外で...

支援プロジェクト



国内で...

活動報告
講演会、寺子屋

地域とのかかわり

ご寄付、入会
ボランティア活動

寄付して応援

活動を継続するためのご寄付です。
全体運営、特定の救援プロジェクトへのご寄付の指定も可能です。

25%を上限に管理運営費とさせていただきます。
ボランティアとして応援

事務所での作業や翻訳、自宅でも可能な作業などのボランティアを募集しています。
詳しくはCODE事務局までお問い合わせください！

知って・学んで応援

あなたの住んでいる地域で開催される講演会にCODEスタッフを講師として派遣します。
テーマ・内容等、お気軽に事務局までご相談ください！

サポート会員になって応援

【正会員（総会での議決権あり）】

個人・学生 : 年会費 5,000円×1口以上

NPO/NGO : 年会費 5,000円×1口以上

企業・団体 : 年会費30,000円×1口以上

【賛助会員】

個人・学生 : 年会費 2,000円×1口以上

NPO/NGO : 年会費 2,000円×1口以上


企業・団体 : 年会費10,000円×1口以上

お振込み方法

■ゆうちょ銀行
支店名：〇九九（ゼロキウキウ）
支店番号：099
口座番号：0330579

■近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）

【郵便振替】
加入者名：CODE
口座記号番号：00930-0-330579
とともにCODEを支援する方を

【クレジットカード】いつも募金するCODEのホームページより ⇒ 

※通信欄に用途をご明記ください。(例 「トルコ・シリア」 「賛助」)

発行元 (特活) CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702

E-mail : info@code-jp.org
HP : https://www.code-jp.org/



Facebook



Twitter



Instagram

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください